

(中学校教員対象広報パンフ)

徳風が進化します

～新たな“徳風スタイル”の構築を目指して～

学校法人三重徳風学園
徳風高等学校 徳風技能専門学校
2018（平成30）年8月

はじめに

地球が絶妙なバランスを保ちながら安定しているのは、ものすごい速さで自転と公転という大回転を続けているからだという。回転が弱まれば不安定になり、回転が止まれば倒れる駒を想像すれば納得がいく。

「無常」は宇宙を貫く大法則。一刻も同じ状態でいられるものなどない。「律動」こそ安定の源であり、「停滞」は安定の証ではない。

本学園も「停滞」することなく力強く「律動」を続けます。

校長 東 則尚

— 揺るぎない“徳風スタイル” —

本学園には、他の高等学校にはあまりみられない独自の仕組みや取組があります。私たちは、それを“徳風スタイル”と呼んでいます。今後も継承する“徳風スタイル”を8つにまとめました。

I 通信教育に関する“徳風スタイル”

1 4つのタイプの高等学校通信教育を行っています。

「添削指導（レポート指導）」、「面接指導（スクーリング）」及び「試験」の方法で行うことと定められている高等学校通信教育について、生徒の多様な実態・ニーズ等に対応できるよう、4つのコースを設置しています。

(1) 全日型コース

徳風技能専門学校高等課程に同時入学し、通常の高등학교と同様に週5日通学して、専門的な知識・技能を習得しながら高等学校卒業資格を得るコース。通常の通信制高校では困難な「専門性の習得」を可能にし、専門高校に匹敵する専門性を養います。

(2) 土日コース

通常の通信制高校と同様に、レポート指導と週末（土・日）に本校で行うスクーリングを中心としたコース。

(3) 平日サポートコース

亀山の本校で前・後期末に集中的に行うスクーリングのほか、津駅西口近くの施設で週3日（月・水・金）の午前中に行うスクーリングとレポートの作成支援を中心としたコース。

(4) 技能連携校コース

技能連携校である専修学校（徳風技能専門学校を除く。）の高等課程に同時入学し、専門的な知識・技能を習得しながら、高等学校と専修学校の2つの卒業資格を得るコース。現在、大阪府及び福井県の高等専修学校各1校に設置しており、新たな技能連携校を募集中です。

— 以下の2～8は、全日型コースの“徳風スタイル”です。 —

II 学校生活に関する“徳風スタイル”

生徒がゆとりを持って学校生活を送れるよう、次のような工夫・配慮をしています。

2 30人学級を基本としています。

生活集団としての学級の編成基準を標準より10人少ない30人とし、少人数指導を実現しています。

3 9時30分に授業を開始しています。

授業開始時刻を通常の学校より約1時間遅くして、遠方からの通学に対応しています。

4 スクールバスを学校・亀山駅間で運行しています。

通学に「困り感」を持たなくもてよいう、また経済的負担を軽減できるよう、登下校時はスクールバスを無料で利用できるようにしています。

Ⅲ 学習に関する“徳風スタイル”

5 40分授業を実施しています。

集中力が途切れずに学習できるよう、授業時間は標準より10分短い1コマ40分としています。

6 授業の自習は原則としてありません。

出張等で学校不在となる教員がいても授業が自習とならないよう、また、各コース行事や検定試験対策等を効果的に実施するための時間を十分確保できるよう、時間割を適時編成しています。

7 中間・期末試験は毎回5日間実施しています。

定期試験は、生徒の過重負担とならないよう1日に実施する試験科目数を少なく設定し、5日間実施しています。

8 進級・卒業等のための補充授業を実施しています。

各教科・科目等の履修・修得、進級または卒業が困難な場合は、その理由を考慮のうえ、年度末等に通常の時間割とは別に特別時間割を編成し、不足時間分の補充授業を実施することもあります。

— 進化する“徳風スタイル” —

本学園は来年度（2019年度）から、生徒の「自尊感情」を高める3つの取組を本格的にスタートさせます。これらは、新たな“徳風スタイル”として確立していきます。

Ⅳ 学習に関する新たな“徳風スタイル”

1 三重県内の高校で初めて公文式教材を活用した指導を本格的に実施します。（最終ページ参照。）

生徒一人一人の学力レベルに応じた公文式教材を使用し、「自学自習方式」による積み上げ学習を継続的に行うことにより、生徒が次のように思える状態を目指して「自己成長感」や「自己効力感」を高めていきます。

- 「できなかったことやあきらめていたことができるようになった。」
- 「得意だったことがもっと得意になった。」
- 「どんな問題でも関連する知識を得て工夫すれば、ある程度は解決できると思えるようになった。」
- 「自分もやればできる。」 等

2 「ソーシャルスキルトレーニング（SST）」を本格的に実施します。

対人行動によって起こりうるストレスをコントロールし、社会生活上の適応や自尊感情を高める目的で行う実技練習である「ソーシャルスキルトレーニング（SST）」を計画的に実施することにより、生徒が次のように思える状態を目指して「自己効力感」を高めていきます。

- 「相手のことをよく知ることが大切だと思う。」
- 「言いにくいことでも勇気を出して言えるようになった。」
- 「相手を非難したり責めたりせずに自分の気持ちを落ち着いて言えるようになった。」
- 「人間関係のストレスを自分でうまくコントロールできるようになった。」 等

3 学校外の社会体験活動を単位として認定します。

学校外で休日等に生徒が自発的に行うボランティア活動等の社会体験活動を教育課程に位置付け、その活動が学校所定の条件を満たし、概ね満足できる成果が認められる場合は、単位として認定します。このことにより、生徒が次のように思える状態を目指して「自己有用感」を高めていきます。

- 「自分も社会の一員として確かに役立っていると実感した。」
- 「人として自立し、社会参加できるよう多くのことを学んで成長していきたい。」
- 「これからもボランティア活動を積極的に行いたい。」
- 「人のために一生懸命に考え、行動すれば、自分も幸福になれると思う。」 等

公文式教材を活用した学習指導について

本学園は本年度（2018年度），総合コースの「グローバルコミュニケーション講座」において，英語の**公文式教材を使った学習活動**を試行実施しています。その成果と課題の検証結果を踏まえ，来年度（2019年度）からは，対象の生徒と教科を広げて本格実施します。以下は，その計画の概要です。

1 目的	<p>数学，英語又は国語の学習内容を段階的に習得しながら，次の自尊感情を高めることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「できなかったことやあきらめていたことができるようになった。」「得意だったことがもっと得意になった。」などと思える自己成長感 「どのような問題でも，関連する知識を身に付けて努力・工夫すれば，ある程度は解決できる。」「自分もやればできる。」などと思える自己効力感 			
2 教育課程上の位置付け	新設する 学校設定教科及び当該教科に関する科目 に位置付ける。			
(1) 学校設定教科について	教科名	「総合」		
	目標	自立と社会参加に必要な知識・技能・態度 を身に付ける。		
(2) 学校設定科目について	科目名	「総合Ⅰ」	「総合Ⅱ」	「総合Ⅲ」
	目標	自立と社会参加に必要な基礎的な知識・技能と自ら考え行動する自主的・主体的な態度を身に付ける。	自立と社会参加に必要な発展的な知識・技能と自ら考え行動する自主的・主体的な態度を身に付ける。	自立と社会参加に必要な応用的な知識・技能と自ら考え行動する自主的・主体的な態度を身に付ける。
	履修年次	1年次	2年次	3年次
	履修方法	全コース必修	総合コース必修 他コースは選択履修	全コース選択履修
	単位数	3	3	3
	指導内容	数学 を指導。	数学を継続指導又は新たな選択教科を指導。	2年次の選択教科を継続指導又は新たな選択教科を指導。
	指導方法	教員一人当たり6名程度の生徒を担当する「 チューター制 」とし，各教員（チューター）は担当生徒の進捗状況を管理し，必要に応じて適切に助言する。また，生徒の学習方法は「 自学自習 」を旨とし， 自主的・主体的な学習態度 を身に付けることができるよう適切に指導する。		
評価	学習量（どれだけ学習したか）・進捗度（どれだけ進んだか）・到達度（どこまで到達したか）により総合的に評価する。			
3 実施上の工夫・留意点	<ul style="list-style-type: none"> 「総合Ⅱ・Ⅲ」で，前年次に選択した教科を継続して学習する生徒は，原則として当該教科の免許所有者が担当する。 各教科の公文式教材は最長2年で修了する。 生徒は学期毎の到達目標の設定，学習進度の計画立案を行う。 意欲のある生徒は家庭でも学習できるようにする。 			
4 その他	<ul style="list-style-type: none"> 年度末に，優秀生徒が公文関係者から賞状を授与される表彰式を実施する。 生徒の特性・課題と公文式教材との相関関係を多面的に研究する。 			